



校友会会報

第20号

2014年1月1日

編集・発行

酪農学園大学同窓会
校友会会報編集委員会
〒069-8501 江別市文京台緑町582
同窓生会館内

☎ (011) 386-1196

FAX (011) 386-5987

E-mail: rg-kouyui@rakuno.ac.jp

http://kouyukai.rakuno.org/

校友会活動の近況について

酪農学園大学同窓会校友会 会長 野村 武

日頃、全国の同窓生の皆様には本会運営に対するご理解、ご協力をいただき心から感謝申し上げます。創立53年目を迎え大学卒業生数（2012年度末）は大学卒26,561名、大学院卒1,481名と大きな組織に成長しており、各支部総会に出席し多くの同窓生にお会いして誇りに思うことは、黒澤西蔵翁の「建学の精神」をそれぞれの地域で実践してご活躍しており、さらに酪農学園ならではの同窓生の強い絆を持っていることです。

校友会活動について

1. 新しい役員体制について

5月24日理事・代議員会において役員が選任され会長野村武、副会長大澤宏一、上村篤正、事務局長竹花一成、理事26名（酪農4名、農経2名、獣医2名、食科3名、食流4名、経営4名、地域4名、生命3名）、監事南部公昭、野上良邦による役員一丸となった同窓会活動を推進する新しい執行体制を構築した。

2. 酪農学園創立80周年記念事業の支援について

酪農学園創立80周年記念事業の支援として校友会は、小冊子「focus digest」を刊行した。

これは麻田信二理事長が酪農ジャーナルの巻頭言「フォーカス」を執筆、連載されたものをまとめたものです。その内容は北海道庁時代の農政部長・副知事の豊富な経験と卓越した知識を元に創立者・黒澤西蔵翁の教えである「酪農学園の精神」をまさに時機を得て、多くの同窓生・学園関係者に普及・啓発しているものです。

3. 酪農学園大学短期大学部閉校に伴う支援

短大同窓会が実施する閉校記念事業に対する支援として50万円を助成した。

4. 第22回ホームカミングデーの開催について

第22回ホームカミングデーは同窓会館前庭で秋の爽やかな晴天の中、全国各地からの同窓生（昭和44年卒酪農・農経学部同期会、昭和43年卒短大同期会など）、学園役員、教員、職員、多数の恩師など200人をを超える参加となった。

酪農学園短期大学部閉校記念「健土健民の碑」除幕式に引き続き午前11時30分よりバーベキューランチが開催された。

永田享後援会常務の司会進行により私、野村の「オール酪農学園体制による、おもてなしの心でOBの皆様方をお迎えます。お帰りにさい」の挨拶に始まり、干場信司学長、宮田勇後援会会長、井上昌保農同志会会長からの歓迎の挨拶をいただいた。

バーベキューランチは元野幌農場で肥育された日本短角牛のヘルシーな牛肉、屯田ファームのソーセージ、野菜、トウモロコシ、乳製品製造学自習室のアイスクリームなど、大変美味しい食材に皆さんが満喫し盛会裏に終了した。

その後、黒澤記念講堂で酪農学園創立80周年記念講演会、作家水樹涼子氏による「田中正造翁の今日的意味～黒澤西蔵氏との出会いも含めて」が開催され250人を超える酪農学園関係者が拝聴して大変素晴らしい講演でした。

5. 今後の校友会活動について

2014年度より校友会組織の一元化に向けて竹花事務局長の卓越した指導力により検討委員会を設置して鋭意検討が進められている。

その主な検討事項の概要について。

- ①基本運営立案検討委員会（横山明光委員長）：一元化に伴う各学科同窓会との連携および支援、支部・地区同窓会活動への支援、校友会会報の充実、卒業記念祝賀会の開催方法について、準会員制度（在学生、大学院生）の設置
- ②会費に関する検討委員会（小山久一委員長）：正会員、準会員の会費徴収金額30,000円への変更および徴収方法、準会員に対する助成、正会員に対する助成
- ③会則に関する検討委員会（末田洋一委員長）：各学科同窓会会則に基づいて、役員・会議・代議員会、会計方法、事務体制等の会則変更

おわりに、我が同窓会校友会が同窓生皆様方と更なる絆で結ばれ酪農学園の発展に寄与できますよう心よりお願い申し上げます。

校友会の現状

校友会事務局長 竹花 一成

会員の皆様には、変わらずご健勝のこととお慶び申し上げます。

いよいよ来年度入学生より「各同窓会の校友会への一本化」が実施され、在校生に対する準会員制度もスタートします。「校友会組織の一元化に伴う」3委員会（基本運営立案検討委員会、会費等に関する委員会、会則に関する検討委員会）からは既に今年度初めまでに最終答申を受け取りました。それにより拡大事務局長会議を開き、その事務局案を今年度総会において提示し実施に向けてのご理解を得ました。

これまでの委員各位のご尽力に心より感謝致します。

来年度は先ず準会員に向け、入学時に校友会への帰属意識

を高めるべく、記念品の配布と入学式で校友会会長の挨拶の場を設けるよう、既に大学側に要望しております。これを第一歩とし、今後さらに校友会組織の一元化を推進して行きたいと思っております。

また、卒業生が大学に戻ってくる大きなイベントでもあるホームカミングデー（9月28日）には、昨年同様バーベキューランチを実施し、多くの皆さまの参加を頂き、和気あいあいとした時間を過ごすことができました。同日に、学園創立80周年記念講演会、短大閉校記念碑除幕式、大学収穫感謝祭も開催されましたが、天気にも恵まれ大盛会でした。ご協力頂いた方々には紙面をお借りし厚く御礼申し上げます。

世の中がめまぐるしく変わる中、校友会の設立理念を忘れることなくさらなる酪農学園の発展を目指し、校友会をより熟成させるよう一層努力いたします。

今後とも会員の皆様のご支援を何卒よろしく願いいたします。

各学科同窓会の一年

酪農学科「活動報告」

酪農学科同窓会事務局長 野 英二

酪農学科同窓会の2012年度の主な活動は、例年同様同窓会報の発行、卒業生への記念品贈呈と卒業パーティーへの助成および同窓生交流支援を行いました。

卒業生に対しては学位記ホルダー、卒業記念集合写真、樋浦誠先生遺稿集を贈呈しました。卒業パーティーへは、酪農学科が活発に利用している元野幌肉牛牧場で生産した牛肉と酪農アイスクリームを提供しました(食材助成)。

本学特任教授の安宅一夫先生(家畜飼料学研究室元教授)が第45回宇都宮賞(酪農指導の部)を受賞されました。宇都宮賞は「北海道酪農の父」といわれる宇都宮仙太郎翁の業績を顕彰したものであり、酪農業界にとって大変権威ある賞です。今回の受賞は、教育・研究・普及活動の功績が高く評価されたものです。酪農学科同窓会としても大変喜ばしい受賞でした。祝賀会は2013年3月30日に家畜飼料学研究室同窓会とアジア酪農交流会と合同で開催され、それに対し助成をしました。

今後も同窓会活動にご理解とご協力をお願いいたします。



卒業パーティー実行委員メンバー

農業経済学科「活動報告」

農業経済学科同窓会事務局長 加藤 浩

農業経済学科同窓生の皆さんこんにちは。農業経済学科同窓会の2012年度の活動をご報告いたします。基本的に例年同様の活動を行いました。スポーツ大会への協賛、会報の発行、卒業記念祝賀会の開催、現地研究会の開催などです。現地研究会は昨年に引き続き酪農学園東京オフィスで開催しました。

この現地研究会は昨年度で24回目の開催で農業経済学科と同窓会が協力して行ってきたイベントです。講師の先生や仲間との久しぶりの再会を楽しみに参加してくれる方や最新の情報を聞きに来られる方など、この会はちょっとした学会のようです。今後は学科同窓会から校友会一元化へ体制の変更が予定されていますが、この現地研究会を存続するかどうかは未定です。

また今年はOB独自主催の同窓会が今のところ無いようです。同窓会からは些少ですが会費の補助さらには開催通知のハガキ発送などのお手伝いをさせていただきます。

同窓会の主役は皆さんです。是非同窓会を利用してください。



食品科学科「活動報告」

食品科学科同窓会事務局長 上野 敬司

食品科学科同窓会の2012年度の活動は例年同様、同窓生の住所録管理、卒業生に対して卒業記念パーティー開催への補助ならびに学位記ホルダーの贈呈を行いました。また例年同様の活動に加え、同窓生間の交流促進、学科同窓会からの連絡等を目的として食品科学科同窓会会員用ホームページを制作し、運営しております。このホームページを通して、既卒者向けの求人情報や卒業研究室単位でのお知らせの発信に利用されております。ホームページの案内、同窓生個別のログインID、仮パスワードを皆様にダイレクトメールにてお知らせしておりますが、ご不明な点やダイレクトメールが届いていない等がありましたら食品科学科同窓会事務局宛までご連絡頂きたいと思っております。

また住所変更等などございましたら直接、食品科学科同窓会ホームページの個人情報設定ページにてご変更頂きますようお願いいたします。

今後ともどうぞよろしくをお願いいたします。



食品流通学科「同窓会活動報告」

食品流通学科同窓会事務局長 西田 智

食品流通学科同窓会の2012年度の活動としましては、2013年3月に卒業生(第16期生)への卒業パーティー支援という形でお手伝いさせていただきました。

2012年度は56名の卒業生が巣立つこととなり、卒業生への記念品としてペーパーウェイトと学位記ホルダーを贈呈し、3月21日に札幌市のセンチュリーロイヤルホテルで行われた卒業パーティーにて、学生の会費補助やビンゴゲームでの景品の補助を行いました。

ちなみに1994年に食品流通学科の第1期生が入学して、卒業した同窓生も1,150名を超すまでになりました。2011年度からの大学組織の変革により、今年度が食品流通学科としては最後の卒業生となりますが、今後とも食品流通学科の同窓会活動にご理解・ご協力頂けますようお願い申し上げます。



■獣医学科 「獣医学科支部同窓会・同期会等開催ラッシュ」

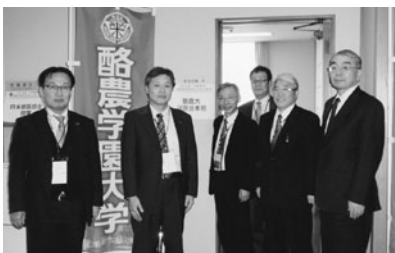
獣医学科同窓会事務局長 菊池 直哉

昨年2月大阪で開催されました日本獣医師会年次大会会場内に、本会専用のブースが初めて設けられました。会期中の3日間、谷山学長、野村同窓会連合会会長、そして北村獣医学科会長が大会に参加した全国の同窓生と交流し、旧交を温めました。今年度の獣医師大会は千葉県で開催されますが、昨年同様設置予定ですので、皆様ぜひともお立ち寄りください。

10月11日に、三愛賞の授賞式が執り行われ、獣医学科創設時から私どもを教育していただいた獣医解剖学教室の阿部光雄本学名誉教授が特別三愛賞を、濱岡隆文氏（11期卒）が動物衛生の試験研究における功績により三愛賞を受賞されました。

獣医学科同窓会では、各支部での同窓会、卒業10周年、20周年などの周年同期会、研究室での同窓会、同窓生による研究会等々が開催され、同窓生間の親睦がはかられています。今年度は例年と比較し、数多くの同窓会が開催され同窓会ラッシュであります。卒業期によっては5年ごとの同期会は序の口で、毎年のように開催しているところもあります。獣医学科同窓会ではそのような会に対して助成金を交付しておりますが、その事務的対応に目を回しております。しかし、それは同窓会が全国で活発に活動している証拠でもあり、事務局としてはうれしい悲鳴です。

今後とも同窓会活動を各支部から盛り上げていただき、ご協力とご理解をお願いいたします。



■生命環境学科「伝えること」

生命環境学科同窓会会長 齊藤真里恵

電気や水道、石油といったエネルギー資源の使い方について実践を進める1年であったと思います。省エネや節電はあたりまえのように定着し、公共施設や家庭、職場などで工夫をしている方も増えたと感じています。震災後見直されてきた取り組みが継続されていきました。行政や経済にも変化が生まれてきたのではないのでしょうか。

「環境のお医者さん」は環境問題の見方や考え方を「伝えて」いかななくてはなりません。そのためには何が問題なのか、どうして問題が起きたのか、これからどうしたらいいのか一緒に考えることが必要だと私は大学で学びました。方法は人それぞれ様々なものがあるはずで、言葉を尽くす、レクリエーションに取り入れる、展示で訴える…伝えること、そして伝える努力をすること、これが今必要とされていることではないでしょうか。

生命環境学科の同窓生は少なくなります。しかし志はきつと受け継がれていくと考えます。今後も生命環境学科同窓会の活動にご理解とご指導をどうぞ宜しくお願い申し上げます。



■経営環境学科・環境マネジメント学科 「活動報告」

経営環境学科・環境マネジメント学科同窓会事務局長

永田 真弓

環境マネジメント学科同窓会の2012年度の活動は例年同様、卒業生への卒業記念パーティーへの補助、学位記ホルダー、記念写真、卒業記念品の贈呈を行いました。

環境マネジメント学科は大学の組織改編に伴い2013年度でカリキュラムを終了する事となりました。歴史の若い学科で至らぬ点が多々あったとは思いますが、皆様のご支援・ご協力を賜りまして同窓会活動を行う事ができました。改めましてご支援いただきました皆様に感謝申し上げますとともに、卒業生の皆様の今後ますますのご活躍を心よりお祈り申し上げます。

経営環境学科・環境マネジメント学科同窓会としての活動は終了しますが、2014年度以降は酪農学園大学同窓会校友会のメンバーとして活動させていただきますので今後とも同窓会活動にご理解・ご協力をお願い申し上げます。



■地域環境学科

「持続可能な発展を目指して？」

—いえ、雑木林のような社会をつくりたい!—

地域環境学科長 遠井 朗子

—昨年はリオ会議から20年、昨年は日本で環境基本法の施行から20年、と環境法政策分野では節目の年が続いています。この間に「持続可能な発展」という用語は広く知られるようになりました。しかし、この思想が私たちの社会に根を下ろしたかというまだまだ道半ばの感があります。

「持続可能な発展」とは何かという点に国際的合意は存在せず、いまだこなれた訳語とは言い難いため、これを新たな社会像と結びつけるためにはもう一工夫が必要です。

そんな折、街角でビッグイシューという雑誌を購入したところ「雑木林のような社会をつくりたい」という記事を見つけました（Vol.224,Oct.1 2013, pp.10-13）。いろいろな人を混ぜること、すべての人に役割と居場所があり「立つ瀬」がある場所をつくるという話です。ここでは「いろんな木が混ざりあい、少しずつ我慢し合って、助け合って成り立っている雑木林」のような社会のあり方が示されています。このような社会は、効率優先ではない、資源を使い過ぎない、お互いぼちぼちやっていける社会という点で「持続可能な発展」という概念にぴったり当てはまるように思います。これからは、「雑木林のような社会」といった方がよいのでは？

このような考え方は、地域環境学科の教育方針とも呼応するように思います。地域環境学科は今年で幕を閉じることとなりますが、地域環境学科という小さな苗床で育った苗木たちが、これから社会のあちこちで豊かな雑木林を形作っていくと考えることは私たちにとっても大きな励みとなります。

昨年の岩井先生のご論考と同様、今年も不思議と「森」の話となってしまいました。野幌森林公園に抱かれるようにして過ごした4年間の大学生活を時折思い出して、機会があれば大学にもお立ち寄り頂ければ嬉しく思います。



2013年度ホームカミングデー報告

9月28日(土)秋晴れの下、全国各地から約200人の卒業生を教職員でお迎えし第22回ホームカミングデーが開催されました。

本年度はホームカミングデー開催前に酪農学園大学短期大学部閉校記念碑の除幕式を多くの短大卒業生と学園関係者により同窓生会館前庭にて行いました。その後、永田享後援会常務の進行により野村武同窓会連合会会長、干場信司学長、宮田勇後援会会長、井上昌保貴農同志会会長に歓迎のあいさつをいただきました。

今年はブルーグラス研究所の学生たちの演奏をBGMに野外バーベキューランチで懐かしい恩師や友人らと交流を楽しんでいただきました。ランチには本学元野幌農場で肥育された日本短角種や健士健民牛乳、酪農大アイス、トンデンファームソーセージ、とうもろこし(野村会長の差し入れ)などたくさんの食材が並び大変好評をいただきました。

午後からは黒澤記念講堂にて学園創立80周年記念事業一環である記念礼拝(永眠者追悼)と作家水樹涼子氏による記念講演「田中正造翁の今日的意味～黒澤西蔵氏との出会いも含めて」が行われ約250名の参加者が耳をかたむけ大変素晴らしい講演となりました。

次回、第23回ホームカミングデーを2014年9月13日(土)に開催予定としております。ぜひ多くの卒業生に出席いただき野外バーベキューランチ、恩師や友人との交流を楽しんでいただきたいと思います。



物故者 2012年4月から2013年3月

ここに謹んでご冥福をお祈り致します。

- | | |
|---------------|---------------|
| 石橋 光彦(酪農・2期) | 佐藤 清(酪農・3期) |
| 加藤 隆(酪農・4期) | 岩館 静男(酪農・6期) |
| 矢島 良三(酪農・9期) | 南山 仁嗣(農経・13期) |
| 永井 哲(農経・37期) | 加藤 和彦(獣医・3期) |
| 高橋 英世(獣医・3期) | 石塚 巧了(獣医・4期) |
| 平山俊一郎(獣医・14期) | 山田 翔一(生命・2期) |

敬称省略

2013年度酪農学園大学同窓会校友会理事・代議員会報告

5月24日(金)新さっぽろアーキシティホテルにて2013年度同窓会校友会理事・代議員会が開催された。

理事9名、代議員10名が出席した。議長は会則により野村会長が行った。第1号議案：2012年度事業報告並びに収支決算、監査結果について報告され承認された。第2号議案：2013年度事業計画(案)並びに収支予算(案)について提案され承認された。第3号議案：基本運営・会費等・会則に関する検討委員会より現状報告が行われた。第4号議案：校友会会報・卒業式等小委員会より現状報告された。第5号議案：酪農学園創立80周年事業への支援、短大閉校に伴う支援について提案され承認された。第6号議案：役員改選について提案され承認された。

そのほかホームカミングデー等で使用するテントを購入する事が提示され議論し承認された。その際テントには酪農学園大学同窓会校友会と明記する事とした。

会計報告 2012年度予算、決算および2013年度予算について下記の通り了承された

収 入		(単位：円)		
項 目	2013年度予算	2012年度決算	2012年度予算	備 考
前年度繰越金	7,946,571	8,100,030	8,100,030	
同窓会費	10,815,000	9,927,000	10,080,000	15,000×660名
利 息	5,000	1,930	10,000	
助 成 金	10,000	10,000	50,000	
ホームカミングデー共催金	300,000	210,000	400,000	学園・関係団体より
雑 収 入	10,000	0	40,000	
合 計	19,086,571	18,248,960	18,680,030	
支 出				
項 目	2013年度予算	2012年度決算	2012年度予算	備 考
学科事業費				各学科予算書による
会 報 費	1,093,750	1,376,053	2,204,000	
会 議 費	255,000	280,200	360,000	
卒業式記念品費	2,036,070	2,189,511	1,109,933	学位記ホルダー他
卒業パーティー関係費	2,108,090	1,531,334	2,209,000	パーティー会費補助他
活 動 費	630,000	277,807	610,000	
事 務 費	240,000	47,790	260,000	切手、ハガキ代他
雑費(慶弔費含)	239,840	101,815	430,500	振込手数料他
支部活動費	1,622,250	544,490	1,512,000	支部への助成
周年事業費	900,000	0	0	学園創立80周年記念事業、短大閉校に伴う支援
校友会運営費				
会 議 費	200,000	281,008	150,000	理事・代議員会他
連合会負担金	640,200	640,200	640,200	負担金
在学生関係	100,000	100,000	100,000	白樺祭支援
会報関係費	250,000	224,500	250,000	印刷代
ホームカミングデー費	300,000	303,217	500,000	
シリーズ小冊子	200,000	158,890	200,000	印刷、郵送代
コンピューター費	100,000	0	100,000	
人 件 費	2,000,000	1,172,996	1,200,000	事務局長手当含む
通 信 費	50,000	47,210	50,000	電話代他
旅費交通費	100,000	119,700	60,000	会計監査、理事・代議員他
慶 弔 費	30,000	0	50,000	
事務用品費	100,000	121,956	80,000	コピー、トナー代他
消 耗 品 費	30,000	35,931	30,000	マットリース代他
卒業記念品	750,000	702,480	400,000	酪農ジャーナル代
雑 費	40,000	45,301	30,000	振込手数料他
小 計	14,015,200	10,302,389	12,535,633	
次年度繰越金	5,071,371	7,946,571	6,144,397	
合 計	19,086,571	18,248,960	18,680,030	